

# 働く世代のがんに関する課題

- 高いがん死亡割合
- 低い検診受診率
- 高い喫煙率
- 乳がん、子宮頸がんの死亡率の上昇
- がん患者・経験者の就労問題
- (将来の働く世代)小児がんの現状と課題
- (参考)国民のがんに対する意識

平成23年12月12日

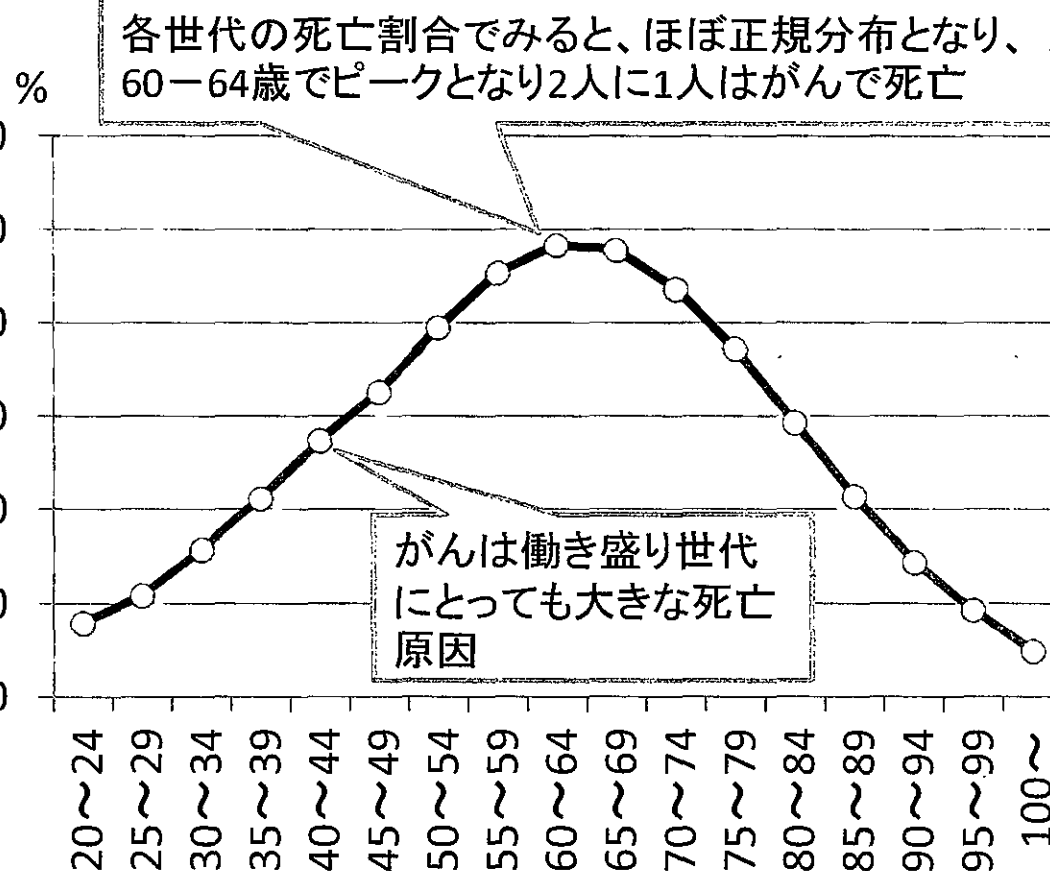
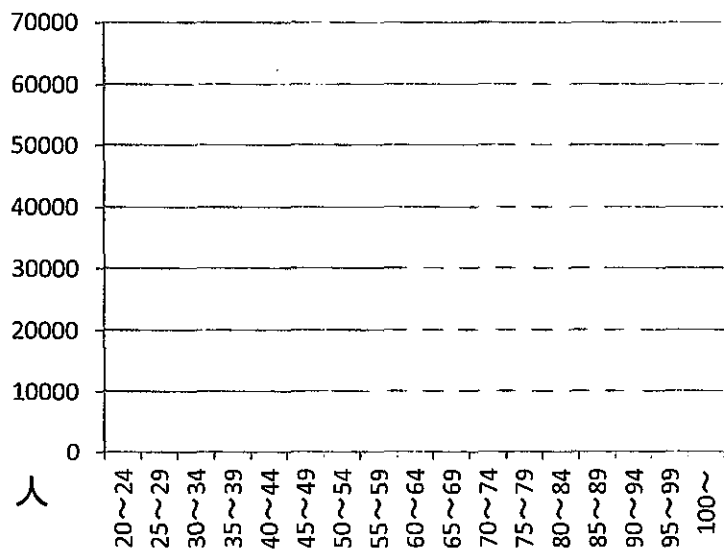
厚生労働省健康局総務課がん対策推進室

# 高いがん死亡割合

(各世代のがん死亡者数 / 各世代の全死亡者数)

働く世代にとってもがんは大きな死亡原因

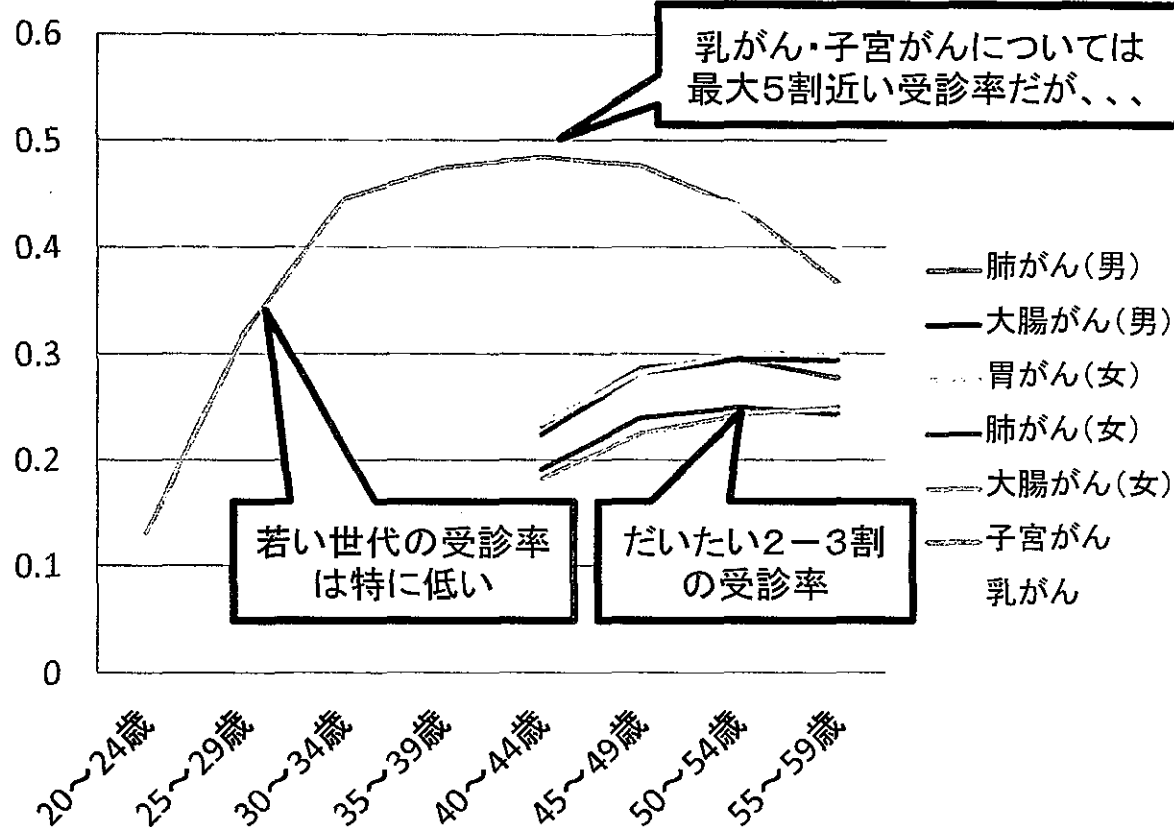
がん死亡者数は80-84歳でピークとなるが、...



出典:人口動態統計(平成22年)

# 低いがん検診受診率

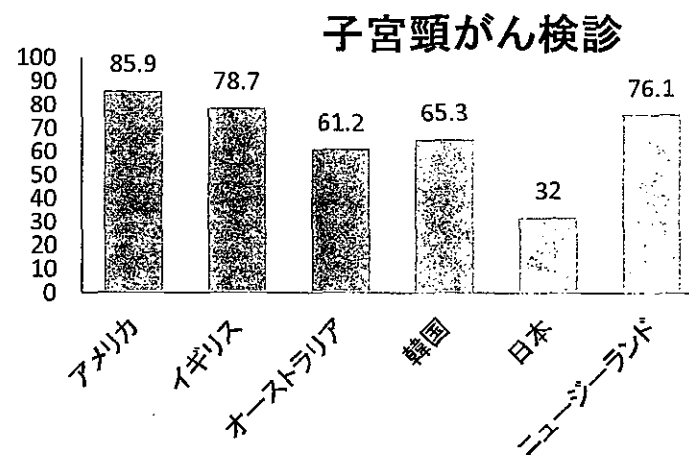
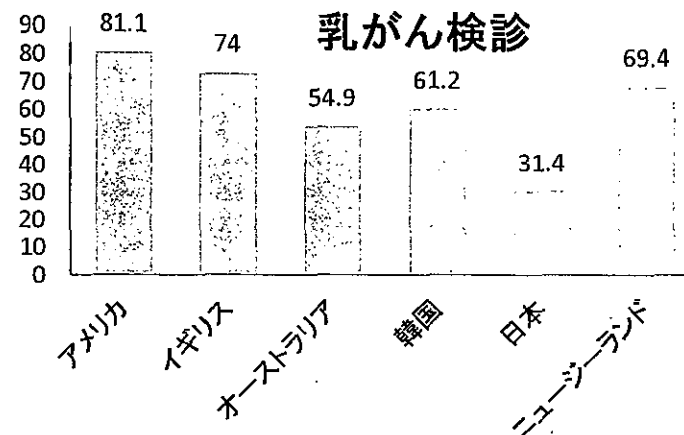
がん種別男女別がん検診受診率



※子宮がん、乳がんについては過去2年間の検診受診率

出典：国民生活基礎調査(平成22年)

## 海外と比べると低い



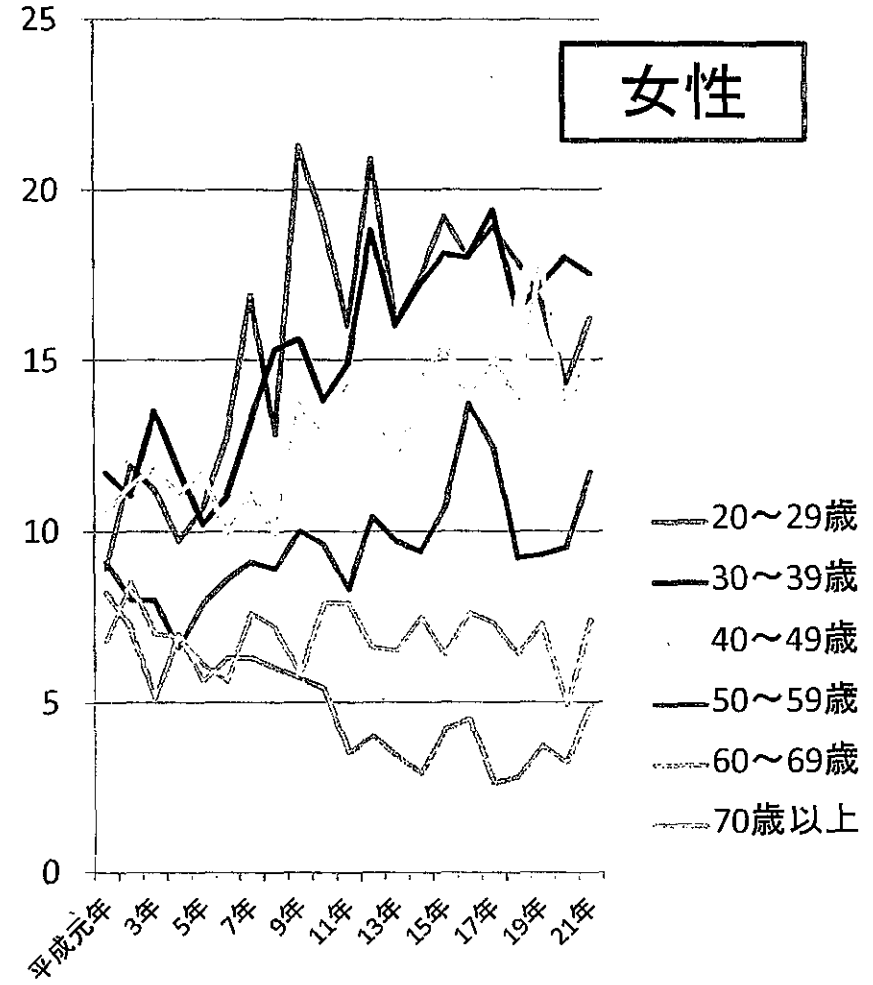
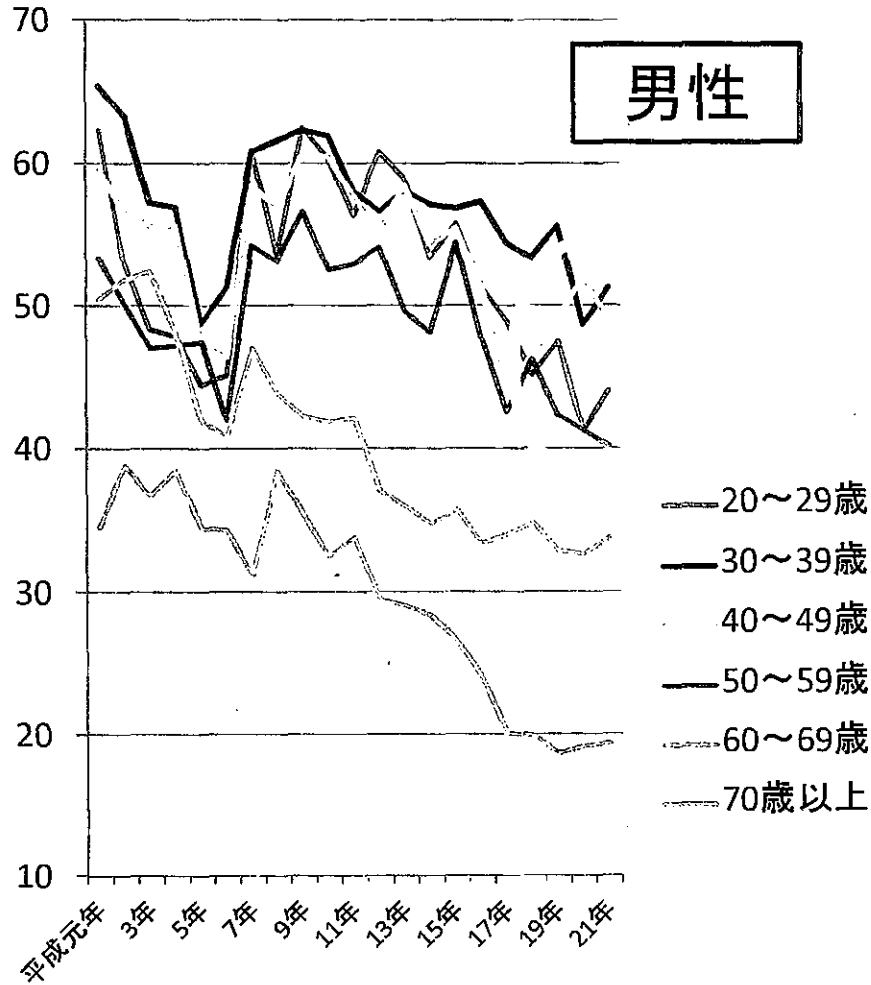
出典：OECD Health Data 2011

(乳がんについては、米、豪、韓国、日本ニュージーランドは過去2年間に、英は過去3年間に受診した率)

(子宮頸がんは米、英(25-49歳)、ニュージーランドは過去3年間に、豪、韓国、日本は過去2年間に受診した率)

# 高い喫煙率

男女ともに働く世代の喫煙率が高い

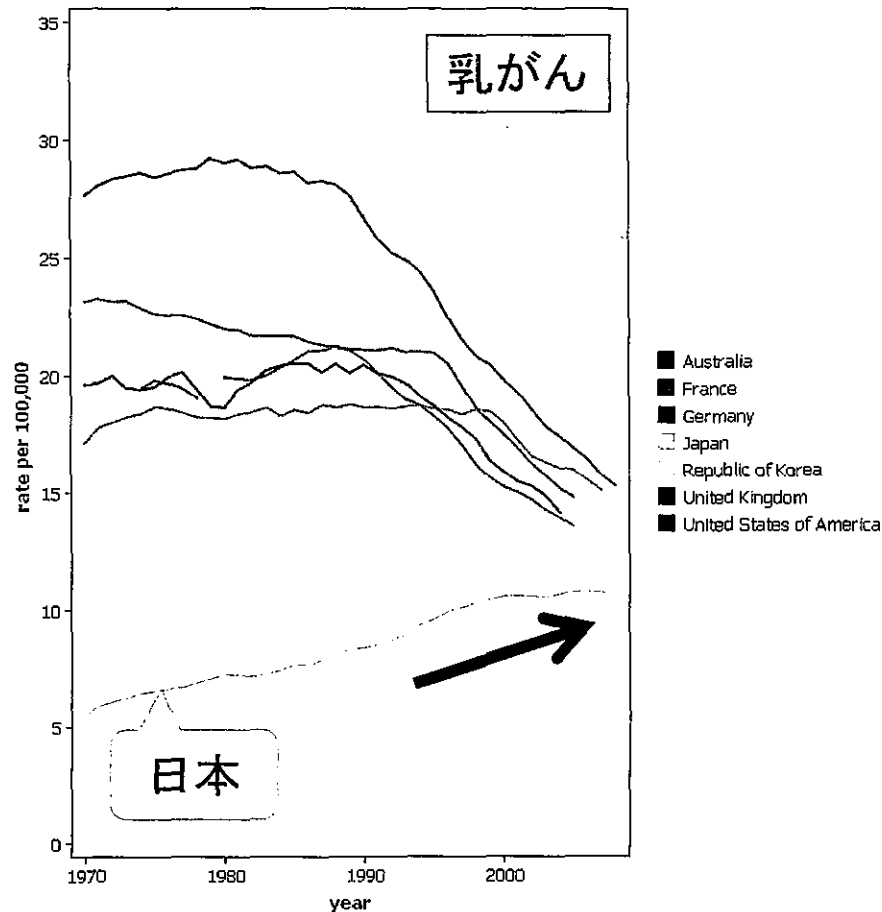


出典: 国民健康栄養調査

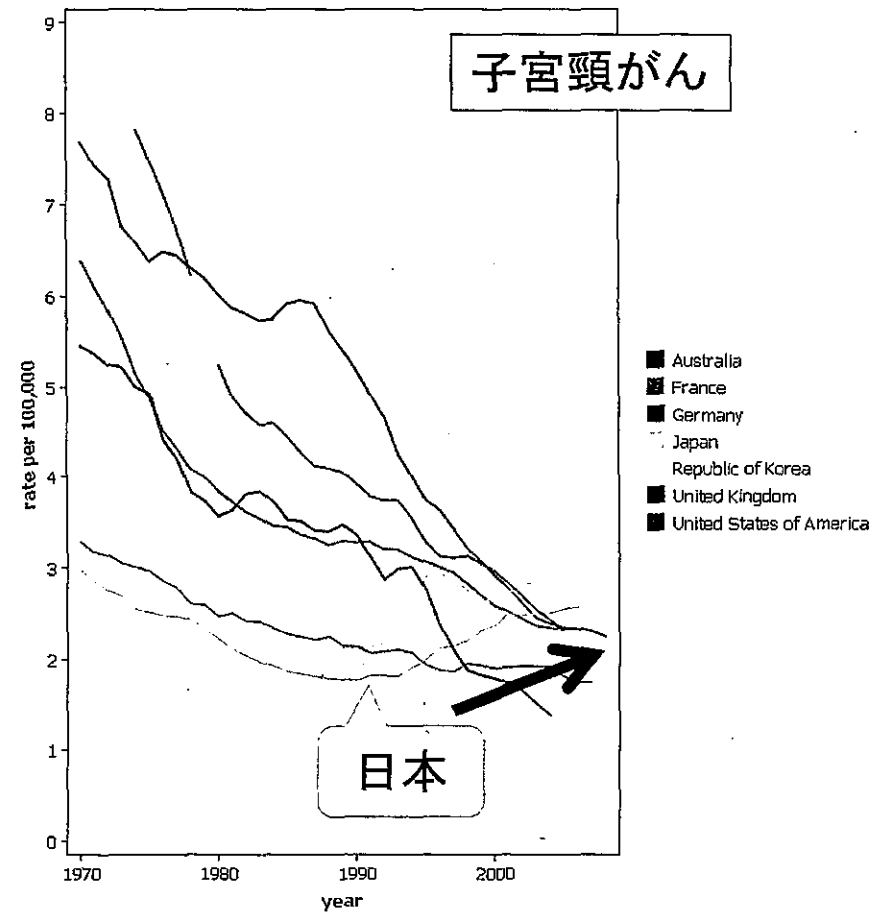
# 乳がん、子宮頸がんの死亡率の上昇

乳がん・子宮頸がん年齢調整死亡率(20-59歳)を比較すると、他の先進国が低下しているのに対し、日本は上昇している。

Mortality from Breast Cancer  
Age-standardised rate (World), age (20-59)



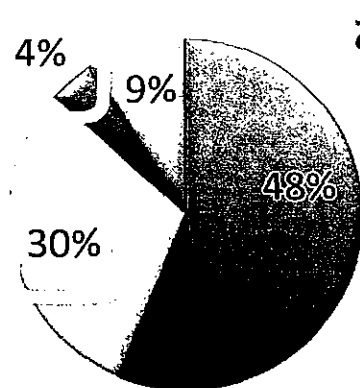
Mortality from Cervix uteri Cancer  
Age-standardised rate (World), age (20-59)



# がん患者・経験者の就労問題

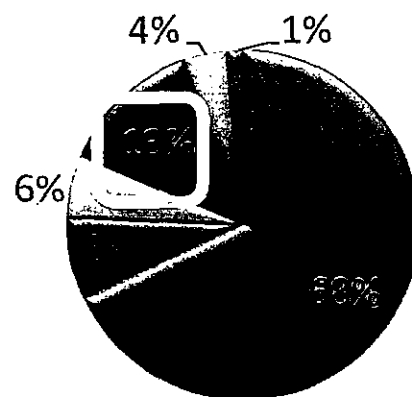
- 勤務者の34%が依願退職、解雇している。自営業等の者の13%廃業している。(※1)
- がん診療連携拠点病院に寄せられる相談の約35%が「働くこと」に関する相談。内訳をみると経済面(64%)、仕事と治療の両立(39%)、仕事復帰の時期(30%)等に関する相談が多い(※2)。

## 診断時点にお勤めしていた会社や営んでいた事業等について



### お勤めの方

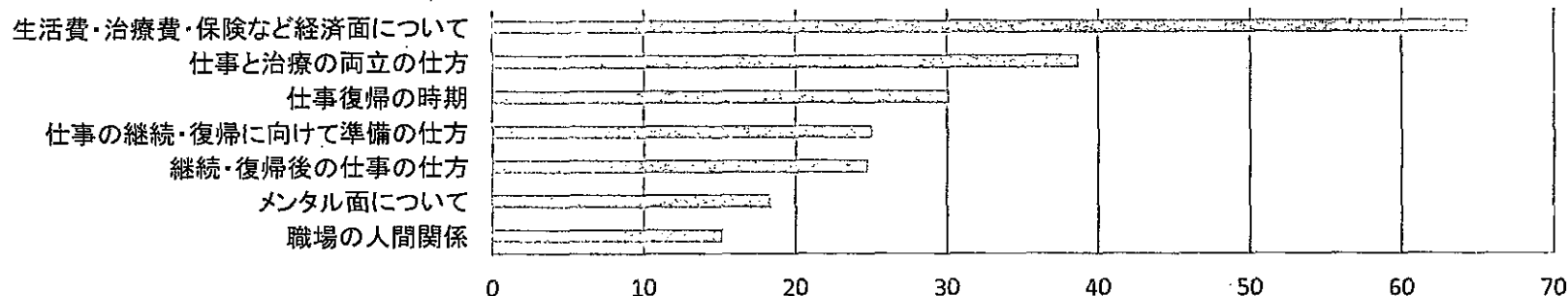
- 現在も勤務中である
- 休職中である
- 依願退職した
- 解雇された
- その他



### 自営、単独、家族従業者

- 現在も営業中である
- 休業中である
- 従事していない
- 廃業した
- 代替わりした
- その他

## 「働くこと」に関する相談や話の内容(複数回答可)



※1 厚生労働科学研究費補助金、厚生労働省癌研究助成金「がんの社会学」に関する合同研究班（主任研究者 山口健）(平成16年)  
 ※2 NPO法人キャンサーリボズ就労支援プロジェクト 2009年調査

# 小児がんにおける現状と課題

## 将来の働く世代にとってもがんは大きな問題

- 小児においてがんは病死原因の第1位であるが、がん対策推進基本計画に小児がん対策はほとんど盛り込まれておらず、小児がん対策が遅れている。
- 小児がんは発生頻度が低く、さまざまな部位から発生するうえ、小児から思春期、若年成人まで発症するため、多種多様ながん種と幅広い年齢層を念頭に置いた対策が必要。また、治療による合併症に加え、成長発達期の治療による合併症（発育・発達障害、内分泌障害、臓器障害等）への対応が必要であり、成人がんとは異なる取り組みが必要。
- 現状、2000～2500人の患者が約200の施設で治療されているが、必ずしも適切な治療がなされていない。
- その他、治療に関する正確な情報提供・相談支援体制の整備、療養環境や教育体制の整備、治療後長期にわたり支援する診療・相談体制の確立、緩和ケア等が課題としてあげられる。

（「小児がん専門委員会報告書」より）

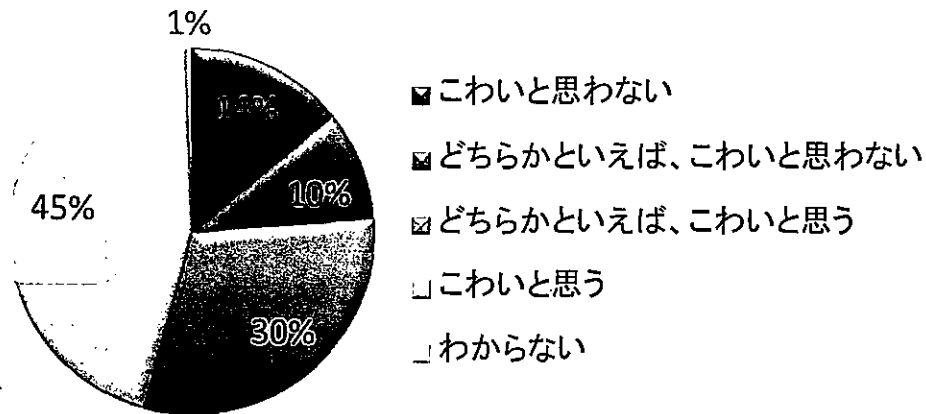
（参考）＜子どもの年齢階級別死因順位（カッコは死亡率（人口10万対））＞

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
1位	先天奇形、変形及び染色体異常(3.8)	不慮の事故(2.4)	悪性新生物(1.6)
2位	不慮の事故(3.5)	悪性新生物(2)	不慮の事故(1.6)
3位	悪性新生物(2)	心疾患(0.7)	自殺(0.9)

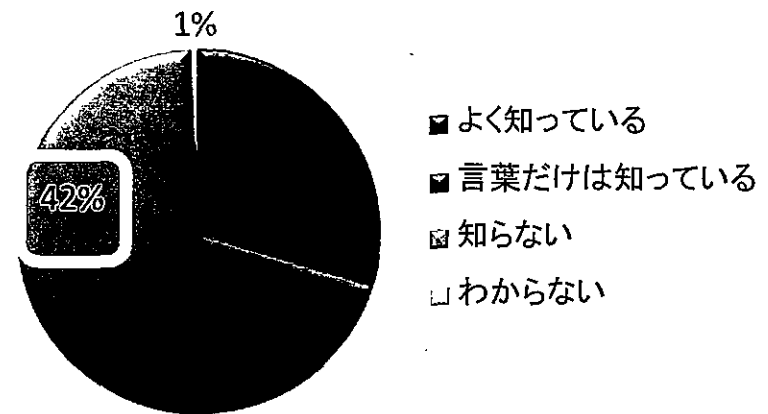
出典：平成22年人口動態調査

# (参考)国民のがんに対する意識

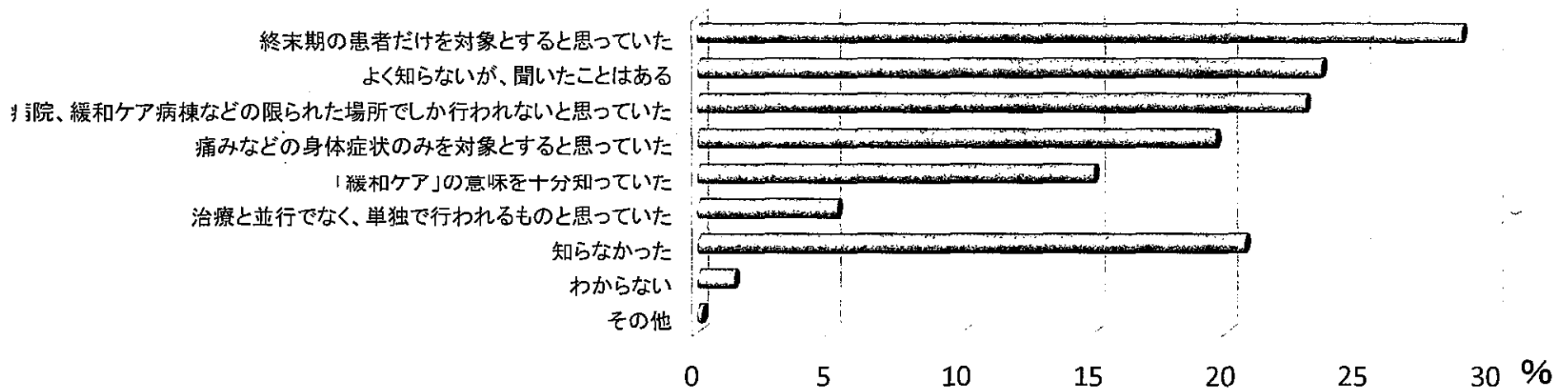
## がんに対するイメージ



## セカンドオピニオンの認知度



## 緩和ケアへのイメージ(複数回答可)



内閣府世論調査「がん対策に関する世論調査」(平成21年9月)